

東日本大震災から間もなく3年です。現地ではまだ多くのペットたちが家族と離れて暮らしています。万一来に備え、日頃から災害対策を考えておきましょう。

環境省が昨年作成した災害時におけるペットの救護対策ガイドラインには、大災害時はペットの犬猫を飼い主と一緒に避難させることを原則としました。飼い主や自治体などが普段から準備すべきことや発生時の対応を記載しています。

飼い主自身の避難ルートの確認などはもちろん、ペットが避難所や仮設住宅で共同生活ができるよう準備しておく



大震災 万一来の備えを日常から

ことが重要です。特別なことはなく、普段の健康管理やしつけで実現できます。

まずは、避難時にキャリーやケージに入るのを嫌がらないようにしましょう。また、迷子対策も必要です。はぐれた場合に備え、マイクロチップや迷子札などで所有者明示をしておきましょう。

ワクチン接種などの感染症対策も重要です。避難生活では免疫も下がり、通常よりもリスクが上がります。ノミやダニ予防も同様です。

集団生活を送るうえではし

つけも大切です。知らない人が苦手だったり排泄^{はいせつ}のしつけができていなかったりすると、避難所生活ではもちろん、預けるのも難しくなります。

投薬や処方食などが必要な場合は、あらかじめ備蓄をしておくほうが良いでしょう。避難グッズは家族分をまとめてすぐ取り出せる場所に置いておきましょう。今一度、対策を考えてみてはいかがでしょうか。

(アニコム損保

獣医師 井上舞)